

『内科専門研修カリキュラム』について

『内科専門研修カリキュラム』は内科専門医が修得する内科全分野の研修内容を網羅したものとなっている。今日、医学・医療が指数関数的に進展し、多様化・専門化の中で、全ての研修内容と項目の修得を、一人の内科医が完全に達成することは困難である。しかし、ここに掲げるカリキュラム内容は、内科医として内科専門医取得後も生涯に亘って研鑽し続けることが期待され、掲げた次第である。これから内科を専攻する研修医は勿論のこと、すでに十分なキャリアを持つ内科医にとってもそのキャリアを維持し、更新する指針と考えていただきたい。

内科専門医制度においては、この研修カリキュラムの内容を達成するために、実体的な研修状況を踏まえながら、日本内科学会をはじめ、関連する内科系 Subspecialty 学会や関連する諸団体と協議を重ねてきた。

1970年、日本内科学会において内科研修カリキュラムが策定されて以来、40年が過ぎた。2014年、日本専門医機構が発足し、専門医制度全般が改まる中、内科研修カリキュラムは10回目の改定を迎え、ここに『内科専門研修カリキュラム』が完成した。より良い内科医育成のために、今後とも関係各位のご理解とご協力をいただき、質の高い研修体制の構築に寄与していきたい。

概 要

- ・『内科研修カリキュラム』は「研修カリキュラム 2011」（現行版）をベースとするものの、初期研修を含めた5年の研修を前提とした内科専門医のカリキュラムとして見直した（内科専門研修期間は3年である）。
- ・『内科研修カリキュラム』は次の領域から構成されている。
『総合内科 I（一般）』、『総合内科 II（高齢者）』、『総合内科 III（腫瘍）』、『消化器』、『循環器』、『内分泌』、『代謝』、『腎臓』、『呼吸器』、『血液』、『神経』、『アレルギー』、『膠原病および類縁疾患』、『感染症』、『救急』これに加えて付録として、「漢方医学」、「医療倫理のポイント」、「患者安全カリキュラム」が前回の「研修カリキュラム 2011」に引き続いて掲載されている。
- ・各領域のカリキュラムは研修項目の一覧表と、その項目を説明する本文によって構成されている。項目一覧表の各項目には達成度の指標となる到達レベルが A, B, C というグレードとして設けられている。なお、各項目の達成度をより明確にするため、到達レベルのグレードは「知識」、「技術・技能」、「症例」として分類されている。具体的には次頁を参照されたい。
- ・研修カリキュラムは研修の根幹をなす内容であるが、実際の研修はこのカリキュラムをもとにした各施設（施設群）の内科研修プログラムにて行われる。
- ・このカリキュラムを単なる理想、目標とすることなく、実際の研修時に履修内容の確認や評価を専攻医、指導医が共有して行えるよう、日本内科学会が Web 上の研修手帳とも言える専攻医登録評価システム (J-OSLER) を別途設ける。

また現在、医療への高まる社会的要請や医学の進展、多様化などに伴い、今後もカリキュラムの領域や項目については、定期的に見直しを行う。